日本の子どもの詩

広島

日本作文の会編

日本の子どもの詩

広島

日本作文の会 編

岩崎書店

日本作文の会
日本の子どもの詩 34
岩崎書店　昭59
110p　21cm
内容：34　広島
〔分〕911

日本の子どもの詩　34　広島
一九八四年一〇月二五日　初版発行

編　者　日本作文の会
発行者　大川松利
印刷所　株式会社　K・M・S
　　株式会社　金羊社
製本所　小高製本工業株式会社
発行所　岩崎書店
東京都文京区水道一―九―二
電話(〇三)八一二―九一三一(代)

©1984 Nippon Sakubun no kai ISBN4-265-93834-5
—Published by IWASAKI SHOTEN. Tokyo, Japan—

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などともよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの〝わらべうた〟）としても、大きな意味がありましょう。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「広島編」であります。どうぞ、ひとつひとつていねいにお読みください。

日本作文の会

もくじ

1918
〜
1945

8 春の夜
孔雀
かき
ぐみ
9 螢
新聞
夕陽
雨
10 ボール
ぶどう畠
小草
松たけ
11 朝顔
おるすばん
豆の双葉
僕のこま
12 夜の海
とんぼ
夕方
13 赤ちゃん
竹の子
岩
とけい
14 きんすずめのむしとり
ちらちらふる雪
つばめ
15 だいだいねらい
うし
絵
けんか
16 最後の遠足
少年消防隊
もや
17 菊
雪やけ
あられ
稲刈
18 お天気
雨
青葉
19 生活優等生の額
田植
20 水車ふみ
麦蒔

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

21 せんたく
柿
22 蔷苗ふるい
傷病兵
道ならし

1945
〜
1959

24 げんしばくだん
せんそう
げんばく
25 ぼくのあたま
貧乏になった
26 へいたいも死んでいた
やけあとで
27 あの日
ピカドン
29 江田島にて
30 ぼくの思ったこと
おぼん
そうじの時
31 新聞を見た
おかね
くも
32 部落こんだん会
弟
33 なえとり
おとうさん
34 いくらはたらいても
ばからしいこと
35 べんきょう
あわ
おしる
36 しうんまる
ミシン仕事
37 炭のけしょう
かぶおこし
コオロギ
38 かに
火星
39 うなぎとり
石うす
40 夜も昼も
まいご
41 おもちやき
うちの馬
おとうちゃんの仕事着
42 大根ぬき
かあちゃん
43 小林のこと

44 野津のおじいさん
45 おかあさん
46 硫黄島
とうとう帰って来ない

1960
〜
1969

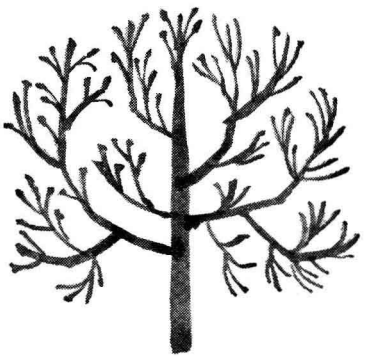
48 とんねる
おじいちゃん
日よう日
49 千円
いで
50 ぜんそく
戦争
51 畳表
母のひざ
52 すいか
おとうちゃんの手
53 おとうちゃん
山
54 父とプロレス
ここは平和だ
55 こえ運び
塩田あと
56 ふろ
57 父の船
足の裏はまっ黒じゃないか
58 かく実験反対
59 小さな空
60 とんぼ
ゆめ
さんすうのとき
61 びっくりした
おかあちゃんのふく
62 不自由な右手右足
服がやぶれた
63 おねえちゃん
地下たび
64 ベトナムの戦争
車の流れ
65 小さな川
原爆資料館
66 五十円
67 稲刈り
さむいあさ
しんかんせん
68 こたつ
おばあちゃん
69 子牛を売る
畑

70 しもやけ
71 テレビのアンテナ
72 地ひびきする家
世界に平和を

1970〜

74 かたつむり
あさがおのめ
あさがお
75 おたまじゃくし
ぼくは、ロボットみたい
76 こいのぼり
あげはのダンス
77 草のにおい
かたもみ
78 大きなあったかい手
79 先生の絵
たね牛
80 お母さん
人を待つとき
81 ほうせんかの花
あり
かかりのしごと
82 つばめ
やまのぼり
ひまわり
83 けんか
くわがた
84 へび
本をいっぱい
クワガタのはさみ
85 算数兄弟
わたしの口
86 せみのたんじょう
いぬのしろ
87 ぶらんこ
耳そうじ
88 ぼく、赤ちゃんにもどりたい
クモの赤ちゃん
89 先生
90 カブト虫のタマゴ
おとしもの
91 お父さんの白がぬき
92 べっち
畑仕事
93 組体操
小さな草
94 曼珠沙華
95 正義のみかた金剛力士像

96 大きな大仏さま
ひよこ
97 落穂拾い
98 米
秋
99 大樹
木のコンパス
100 すもう
でんせん
おとうちゃん
101 ユーモレスク
おこりじぞう
102 ぼくの家の牛
戦争用船
103 おかあさんの手
パワーシャベル
104 売られていった子牛
おかあさんのおなか
105 後ろ回り
106 きこえなくてごめんなさい
*
107 あとがき——広島県の児童詩指導の歩み
110 この本の編集をした人たち



1918～1945

（大正７年）　（昭和20年）

広島県出身の鈴木三重吉が
「赤い鳥」という子どもの雑誌を
出したとき、
北原白秋がこの雑誌に子どもの詩
を募集し
そのすぐれたものを掲載しはじめ
た。
広島の子どもも詩を書きはじめた。
ここには、この時代のものから
戦争が終わるまでの作品が
時代順にならんでいる。

春の夜

外にはかえるが
があがあと、
しずかな庭を
鳴いている。
家には時計が
ちんちんと
しずかな夜を
いそいでる。

林 三郎 小6
賀茂郡吉川校

孔雀（くじゃく）

孔雀の尾は五色だ。
長いしっぽまるく拡（ひろ）げ、
岩の上に立っている。
赤いお眼々（めめ）で何見てる。

青木こずえ 小5
広島市白島校

かき

きむらのはたけの柿の木に、
みがいっぱいなっていて、
はが一つもなかった。
べにのようにきれいかった。

大下せきよ 小2
安芸郡倉橋校

ぐみ

ぐみが、
木と木の間で
紅をつけた。

奥明 要 小5
佐伯郡石内校

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

螢（ほたる）

田植のすんだ
後の田に、
螢とんでた。

倉本章一　小5

佐伯郡石内校

新聞

ばっさりと
今きた新聞、
鳥の羽根のような
新しいにおいがする。

芳原真佐緒　小4

深安郡神辺北校

夕陽（ゆうひ）

夕陽が、
家をゆるがすように、
光っている。

沖嘉一　小5

広島市広島光道校

雨

雨の日、
暗かった教室に、
急に明りが
さして来た。
先生の声も、
大きくなった。

俵公三　小5

広島市広島光道校

ボール

暖かい日でした。
ボールを投げていると、
職人さんや、
散髪屋さんが来て、
みんなでボールをしました。

尾道市久保校
岡本行雄　高1

ぶどう畠

ぶどう畠を
指をくわえて見ていた子供。
急にぶどう畠を
見い見い走って行った。
向うに火が
ちんがりちんがり見える。

呉市二河校
石田昌義　小5

小草

冷たい朝だ。
小馬が息するたびに、
口のほとりの
小草がゆれるよ。
こまかくこまかくゆれるよ。

呉市港町校
石田よしの　小6

松たけ

さらさら小山は雨ふりだ
松たけぼうさんはえただろ
そらいけ
お山へなばとりに

佐伯郡厳島校
木村武夫　小2

朝顔

浜本ヒサヨ　小4

朝顔つるだす
井戸のそば
ひょっとのぞいてみたけれど
あまりの深さに
おどろいた

安芸郡楠那校

おるすばん

山口正巳　高1

今夜は一人でおるすばん。
ひばちにすみが
おこっている。
私がすみを見ておれば、
すみも私を見つめてる。
私とすみは二人きり、
なんだかさびしくなりました。

深安郡引野校

豆の双葉（ふたば）

山口正巳　高1

豆の双葉
かわいいな。
お手々あわせて
お日様おがむ。

深安郡引野校

僕のこま

田中邦男　小3

僕のこまは　よくまわる
くるくる　くるくる　よくまわる
ひとむちうてば　うなりだし
ごんごん　ごんごん　よくまわる

佐伯郡甘日市校

夜の海

まっくらな
海の中
火が一つ
流れてゆく
ろの音が
キイッキイッと
なるばかり

尾道市筒湯校
戸田義男　小6

とんぼ

そよそよふく風のおと
その風に
とんぼがゆれて
とんぼのはねが
ぴかぴかひかると
すうっとあがって
らくそうにゆれている

龍野員雄　小3
山県郡美和東校

夕方

もえる、もえる、
たきびがもえる。
かあちゃんは
ゆうはんのおしたくよ。
とうちゃんは
おこたで、しんぶんよんでいる。
私はおこたで
いもうとをつついている。
外はさびしい夕方よ。

山県郡美和東校
久枝スミエ　小4

赤ちゃん

神垣スズエ　小6

電気がきえた。
赤ちゃんが、
小さい力で
私にかじりついた。

賀茂郡広南校

竹の子

福永貞子　小4

竹の子竹の子
早く頭を出してくれ
毎日毎日来て見たが
まだまだはえぬ竹の子は
雨のふる日にはえました

甲奴郡吉野校

岩

下本清子　小4

私が岩の上にこしかけて
梅ばっかり見ていたら
岩が
舟のようにうごくきがした

豊田郡大崎南校

とけい

植上初子　小2

うちの　とけいは
びょうきで、とまっている。
おいしゃへ　つれて　いきましょう。
ひとりで
おいしゃへ　いきません。
八時で、とまって　うごきません。
とだなで　しずかに　ねて　います。

尾道市筒湯校

きんすずめ(しじゅうから)のむしとり

太田旭弘　小4

朝からばんまで虫とりだ
稲(いね)のきりかぶにとまって
いつも虫とりだ
つめたい水の中にはいり
しんぼうして虫とりだ
さむい日にも
田んぼで尾をうごかしているのは
きんすずめだ

豊田郡大崎南校

ちらちらふる雪

尼田隆富　小3

教室の中にいると
雪がふってきた。
ちら　ちら　ちら
なかよくふる雪。

けんかをしいしいふる雪。
みんなが
わあ　わあ　わあ
さわいでいる。
みんなうれしい。
外をはしりまわった。

豊田郡大崎南校

つばめ

松田義雄　小4

たばこやのまえの
でんきばしらに
つばめがとまっていた。
たばこやの
とけいがなると
びっくりにげだした。

佐伯郡津田校

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com